

室蘭だんばらへ GO！～キッズもシニアも旅行者も！体験型アクティビティは ACTRAN にお任せ！～

応募チーム名：U-18 室蘭元気バクハツ隊 自治体：北海道室蘭市

（特徴）

室蘭市の郊外、市街地から 5 kmほどのところに、1987 年暮れにオープンした室蘭市営の「だんばらスキー場」がある。当時は室蘭の人口も 12 万人以上であったが、今ではオープン当初と比較して利用者数が大きく減少しており、リフトも老朽化して閉鎖の可能性も否定できない状況となっている。そこに着目した大谷室蘭高校の学生チームによるスキー場の再利用のアイデアである。具体的には、ACTRAN という事業所を設立



し、高齢者や若者などの室蘭市民、外国人や国内の観光客に対して、①スポーツ、②健康、③ファン、④自然（特に天体観測）4分野のアクティビティを提供する提案である。実現に至るまでには、解決すべき課題も多い。しかし、地域を活性化したいという高校生グループによる、地域課題の調査から入り、関係者にヒアリングし、アイデアにまとめ上げていく学校活動の成果としては、大変優れている。

（アドバイス）

1. このプロジェクトに参加した高校生たちへの期待

高校生たちは、この 3 月で高校を卒業しましたが、このアイデアを作成する過程で学んだデザイン思考による人間観察やデータ分析の重要性をベースに、①各種イベントに参加して学んだ室蘭地域のこと、②ヒアリングやアンケート調査で学んだこと、③収支計算など経営感覚の重要なこと、④グループ学習での分担と統合作業で学んだこと、そして何よりも、人のつながりの大切さと、仕事を起こし、雇用を増やし、まちの活性化の大切さを胸に秘めて、これからの人生を歩んで欲しいと思います。

2. だんばらスキー場の今後についてのフィージビリティスタディ

当施設は室蘭市公共建築物適正化計画¹では、あり方を検討する施設の対象となっています。今後の課題としては、高校生チームの手を離れて、意欲ある室蘭関係市民の手によるフィージビリティスタディの道を探ることも一案かと考えます。高校生たちのアイデアで本人たちもいないので、引き継いで進めることには困難かも知れませんが、関係者の率直な話し合いの場が設けることができるかどうか前提です。

3. フィージビリティスタディの担い手とポイント

仮にフィージビリティスタディを進めるとした場合には、一種のリゾート開発になりますので、その専門家の意見をよく聞くことも重要かと思われます。その際に確認したいことは、①特徴ある魅力の引き出しと集客可能性の見通し、②競合するリゾートとの関係、③運営主体の収支（人件費などの織り込み）と在り方、④着手の時間軸の在り方（特に海外観光客のきめ細かい長期的な見通し）などが欠かせないと思われます。

4. 市役所への期待

高校生たちによるオープンガバナンスの取り組みが今後も円滑に進むよう、データ分析やデザイン思考や関係者との調整などの面で、今後とも協働の継続を期待してやみません。と同時に、この件に限らず、担当原課の職員の「市民・学生と共に」施策を考えていくスタイルの醸成を願っております。

¹ http://www.city.muroran.lg.jp/main/org1600/documents/tekiseika_honpen.pdf